

## I ペトロ 1:13～16 節

今月は私たちが属しているホーリネスの群れが掲げている四重の福音、「新生」「聖化」「神癒」「再臨」信仰の強調月間ですので、先週は「新生」新しく生まれ変わることにについて聖書からお聞きしました。本日は「聖化」についてみて参りますが、「新生」からの続きともいえるので、先週のことを少し振り返ってみたいと思います。私たちの人生には悔やまれること等多々あって、人生をやり直すことができればと思った経験もあるのではないのでしょうか。もしやり直すことができたとしても、結局は同じ轍を踏むことしかできないということを申し上げました。しかし、信仰によって、この命が丸ごと全て新しく生まれ変わることができる、つまり「新生」の恵みに与る幸いを知ることとなりました。

## 神の子としての歩み

新生とは、所謂、二度目の誕生を意味しています。一度目の誕生は、この世の両親の子どもとして生まれたように、二度目の誕生では、「神の子」として歩み始めることができるようになるのです。その歩みとは、考え方も価値観も全く新しくされるということで、そのことを「新生」といいます。ならば、「神の子」としての相応しい歩みがあるわけで、それが「聖化」「聖く化けてゆく」歩みであり、本日のポイントとなります。

14-15 節にこのように記されています。「無知であったころの欲望に引きずられることなく、従順な子となり、召し出してくださった聖なる方に倣って、あなたがた自身も生活のすべての面で聖なる者となちなさい。」せっかく新しく生まれて神の子とされたのですから、以前と同じ価値観で生きるのではなく、聖なる神様のご性質に倣い成長を求めて歩むようにと命じられています。

「神の子」とされる根拠は、私たちが一生懸命善い人間になろう、聖書をよく読んで理解しようという努力ではなく、イエス様が自分の罪の為に十字架に架かってくださったと信じる事によってのみ神の子とさせて頂けるのです。それが所謂、クリスチャン・信仰者です。「神によってあなたがたはキリスト・イエスに結ばれ、このキリストは、わたしたちにとって神の知恵となり、義と聖と贖いとなられたのです。」(I コリント 1:30)とパウロは語っている通りです。イエス様の十字架の贖いを信じる者は、その内に神の聖が与えられているのです。それは聖霊の力を通して私たちの内になされる神の業であります。

そのことを理解するのは難しく、「神の子ども」に相応しくない・・・とってしまいがちですが、唯々、私たちの罪を赦してくださる神の豊かな憐れみにより可能とさせて頂けるのです。私たちは罪ある者ですから、自分の努力や修行等では、到底「聖なる者」とはなり得ないのです。しかし、イエス様の十字架によって、流されたその血潮によって清められ、罪の束縛から解放され、全ての罪を赦された者であり、その結果、神の子どもとなっていることを先ず、確信し信じるのが大切です。

イエス様の十字架によって、どのような人であっても、過去がどうであっても、新しく生まれて神の子として生き始めることができると、既に断言してくださっています。これが正に福音なのです。良き知らせです。「私なんて、とても清められていない」と思うのは、翻っていうなら神の恵みを拒否し、神の力を無にすることになるのです。

神が願っておられる事は、信仰者が日々霊的に造り変えられ、きよめられながら＝成熟した信仰者クリスチャンとなる事で、行きつくところは栄化です。このように新しく生まれ変わった時から、きよめられて救いの完成、栄化を目指していく聖化の歩みが始まっているのです。乳飲み子がだんだんと成長して、大人になってゆく途上にあります。子どもがどんどん成長してゆくように、信仰者もそうして成長して、聖く化けてゆく喜びを感じながら天国を目指して歩めるのが信仰者であります。

#### 神の子としての特権

もう一つ目に留めたいことは、「神の子」とされた信仰者は、神様と親子関係になった訳ですから、信仰者の親は神であります。親にとって子どもの誕生は大きな喜びであります。それと同時に希望ある未来を与えたい、生き生きとした希望に与ることができるようにと願う親心であります。そうして信仰者の人生の最後の時に至るまで責任をもって育ててくださっています。

その反面親は子育てには責任があるわけで、神様も同じように新しく生まれ変わった子どもを育てるには苦勞がつきものです。私たち人間側が不信仰に陥る時、神様を忘れてしまう時があります。しかし、そのような子どものことを気にかけて幸いな道を歩めるようにその道を整えてくださっており、今も心にかけてくださるのが親である神であります。そのような神様に信頼して感謝して喜びながら歩んでゆくのがクリスチャン、信仰者です。

そうしてやがて、イエス様が再び来られる終わりの時＝再臨の時に私たちの救いが完成するその時がやってきます。今はまだその一部を信仰によって味わっているに過ぎません。私たちの現在は、その時に向かう喜ばしいプロセスなのです。そのプロセスが聖化＝聖くなり続けることです。「天をも地をも、わたしは満たしているではないか」(エレミヤ書 23:24)と記されているように、神様はどこにでもおられ、気にかけてくださり、今もここにおられ、全てを満たしてくださっています。

ですから、「わたしが聖であるから、あなたがたも、聖でなければならない」という命令は、私たちを戸惑わせたり、苦悩させるために意図されたものではありません。神は要求なさる時、それを成すための力を必ず与えてくださる。神からの無条件の恵みが与えられているから聖なる者とさせて頂いているのです。この恵みを心から感謝して喜んで聖く化けてゆく私たちなのです。